



大阪府保育士会だより

ほほえみ

令和5年
9月1日

135号

発行 大阪府社会福祉協議会 保育部会・保育士会 大阪市中央区中寺1-1-54 ☎ 06-6762-9001

研修レポート
保育士研修会

河内ブロック 乳児保育①

～幼児期への接続について～

講師 大方美香氏 (大阪総合保育大学学長)

日付 6月16日 場所 たかつガーデン2階



大方美香 学長

を立てるときも3月から4月というのはよほど考えなくてはいけない、このことをまず頭においてください」という話からはじまりました。

● 私たちの専門とは

私たち保育士の支援は、就労している親だけではなく在宅の親にも必要とされ、国全体の子育て支援のあり方が変わりつつある。

保育士会の倫理綱領に「私たちは子どもの育ちを支えます」とあるように、私たちは子どもたちの育ちを支える専門家である。

発達というけれど、ほつておいて勝手に育つわけではない。育ちを支える大人、自分の存在を認めてくれる人に出会うことが必要である。先生が一日のうちたった1秒でも心地よく目を見て名前を呼びその存在を本人に伝える努力をする、ほんの少し触れる。子どもはそれだけで関わってもらったという気もちになる。

私たち専門家は子どもたちの今、何が育ちつつあ



善かを考え、判断していくことが一番大事である。

● 一人ひとり個別な育ち

0・1・2歳はあらゆる運動機能が育つ。「物に出会う」ということは体のあらゆるところを使う可能性をそこに秘めている。

物に出会うことから五感が育つ。「視覚」見ることによって物との距離感や色や形態を記憶していく。「触覚」冷たい、気もちいいなどいろんな感覚が目覚めていく。「聴覚」音がする方へ向かうとする。「嗅覚」匂いがあるものとなんかを知る。「味覚」いろんなものを舐めることによって舌を動かしていく。舌を動かしていな

かったら唾液は出ない。口を動かし開けることによつて言語の発達や離乳食を食べる際の口の動きがわかり咀嚼につながる。

乳児の育ちというのは、どういう生活、体験を積み重ね生きてきたか、どういうものを食べ、触り、どんな言葉聞いてきたのか、自分を出してよかったのか、「ダメ」って言われてきたのか、それらが全部「育ち」として影響する。

運動機能や感覚が育つ時期、筋肉が育つ時期にどのような環境にいたのかによつて一人ひとり五感の感覚はまるで違ってくる。

● 幼児期への接続

特に2～3歳の移行期というのは、こども園の場合には進級児だけでなく、小規模園からあがってくる子、3歳まで家で育った子など



さまざまの子がいる。3歳の接続のカルチャーショックはかなり大きい。

まだ言葉で説明できない年齢で育ちの差もあり、環境が変わるということは、これまでの居場所がリニューアルオープンになる、ということである。子どもにとつては赤ちゃん返りや分離不安をおこしやすくなる。そのギャップを3歳の担任の先生は考えておかないといけない。

子どもに対する見方や関わり方も、なかなか大人同士で継続されず切れてしまいがちなので注意したい。3歳の4月「みんないっしょに」から保育に入るとたいていうまくいかない。ひとり遊びを充実させていき、その中でその子の遊ぶ姿を通して何が育つていて何がゆっくりか、を見極めていく時期と考えると良い。そうすると1学期が終わるころには落ち着くもの。ひとりのあそびが充実しないとトラブルばかりで、常に子どもが葛藤して、ストレスをもっているのうまいかかないと思っておいてほしい。

南大阪ブロック

乳児保育②

～子育て支援・保護者対応について～

講師 大方美香氏 (大阪総合保育大学学長)

日付 6月16日 場所 たかつガーデン2階

育て支援として大切な存在となっている。
またその体験が、後々人権を尊重することにもつながっている。

そのため、子育てをしたという地域にすることが課題としてあげられる。

この世の中、便利になってきているが中でも、保育園は子どもを育てる人にとっての安全基地を担っている。

●子育てのイマ

ネット社会が広まる中で、言葉で表現したり対話することが、苦手な保護者が多くなってきた。

また新型コロナウイルス感染症拡大予防の影響から人との身体的距離の確保など、「3密」を避けるようにしてきたことも追い打ちとなり、人との関わりがよりいっそう育ちにくい時代となった。子育てをしていく力のないまま子育てをしようにしている現状がある。

また、そうならざるをえない社会のしくみにもなってきた。

人とのつながりがなくなるということとは、助けてもらうということがなくなるということ

●子どもにとっての安全基地
子どもたちにとって、愛情豊かで応答性のある大人との出会いが、大切である。
3歳までに心地よくさせてくれる大人に出会うことが、子どもには必要なことであり、私たち保育士は子

どもであり、その中でも子育てをしていかなければいけない。

子育てには、忍耐力や自制心が必要である。子育て支援として正義感を伝えても、親は受け止めることがむずかしいだろう。子育ての良し悪しを伝えるだけでなく、それぞれの家庭のデコボコをケアしサポートしていく姿勢が重要になってくる。保育士自身、自らと同じように保護者に対して、イメージをはいけない。

自分のできることを保護者にもとめては駄目である。また園に来てはいる人だけでなく、地域在宅ケアにも目を向けていかなければいけない。

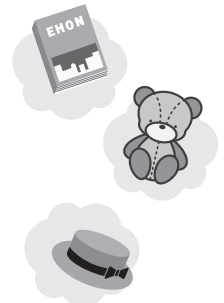
産前産後から子育てをしていくための見通しがもてるように、つながっていくことも支援のひとつである。

●子育ての魅力

子育てには、素敵なところがたくさんある。

子育てのやりがい・子どもの笑顔・成長など魅力がたくさんある。しかし、魅力を実感できるのは、3歳ぐらゐを過ぎてからであり0〜2歳の子育ては、しんどさばかり

が多く目立つ。
子ども自身のことがわからない、自分の育ってきた環境と比べてしまう。そしてストレスをためてしまう保護者が多い。今保護者はどんな悩みに直面しているのかを考えながら、支援していく必要がある。そのためにも、周辺領域で助けられる人がいることが大事で、それによって、子育ての悩みは大きく変わってくる。



保育士派遣事業

今年度、2件の養成校へ行ってきました。



中振敬愛保育所の寺下園長(右)と保育士の2人

●四條畷学園短期大学

●桃山学院教育大学

7月6日、桃山学院教育大学の3年生19人を対象にした「子育て支援」について、まずげんき桜桃保育園 向井園長と水元副園長の2人から園で取り組んでいる「ほめ育」についてお話しいただきました。

次に「保護者支援」として、要保護児童対策地域協議会(以下、要対協)の取り組みについて、誉田(こんだ)保育園 森田園長よりお話しいただきました。

実際起こった事例をもとに、虐待防止にむけた、各機関の取り組みや、支援援助内容などを話されました。難しいテーマではありましたが、保護者支援の必要性と、いち早くSOSに気づき、悩みに寄り添うことが大切だということが、また虐待から子どもを守ることの大切さを、心に刻む講義でした。

園の行事や、日常の先生と子どもたちのかかわり方を紹介いただきました。
また、男性保育士が保育の魅力や役割などをユーザーと交えながら、伝えてくださり、当日、参加されていた男子学生にエールを送る機会になったと思います。



げんき桜桃保育園の向井園長(右)と誉田保育園の森田園長(左)



村田 夕紀 先生

造形活動①

研修レポート 保育士研修会

つくったり かいたりを 楽しもう！

～豊かな表現を支える保育者の指導と援助～

堺

講師

村田 夕紀氏 (造形教育研究所代表)

ブロック

日付

7月27日

場所

大阪府社会福祉会館

幼児を対象とした造形活動について、村田夕紀先生が、実技を交えながら、講義してくださいました。

ねらいは、保育者が子どもの造形活動を柔軟に理解し、活動を通して子どもの生きる力の基礎を育むにどうすればよいかを探ることでした。

【造形活動と指導のポイント】

- ① 空き箱などを使った動く車
② 動く仕組み
③ 材料の話

次にそれぞれの造形活動に対して、指導のポイントを教えてくださいました。

始めに、「保育者の指導がきつすぎると見本通りになり、子どもの主体性がなくなる。一方、子どもに任せきりで自由でいいのだよ、ばかりでは豊かな表現に向かっていけない。また、絵画や造形が好きなお子も参加するが、表現の苦手な子は参加しないと状態になる」と話されました。

では、子どもの自由で豊かな表現を展開するためにどのような指導と援助をすればよいでしょうか？

まず題材は、目の前の子どもの興味・関心、そして生活の様子をヒントに設定すること。

- かし方 ③ 接着の仕方
- ② 紙粘土細工
① 紙粘土の使い方
- ② 接着の仕方(ボンドなど)
③ 紙(画用紙・模造紙・折り紙)細工
- ① 箱の作り方(階段状の折り方や窓の折り方など)
- これらのポイントを先に指導しておく、後は子どもたちが自分自身で自由に表現し始めるので、その先は、手伝ったり、褒めたり、子どもなりの表現方法に感動したり、保育者も楽しめると思いました。
- また「導入は活動の説明や一方的な指示にならないように」という先生の言葉にハッとさせられました。
- 保育者が子どもに工夫してほしい内容を的確にわかりやすく伝える
- 子どもと言葉のキャッチボールを交わしながら子どもの思いを引き出す
- 「保育者の話を聞く」だけではなく、「保育者や友だちと話し合う中でイメージを膨らませることが出来るような導入を工夫する

ばいけいな痛みを感じました。

実技に入る前に、ハサミの指導方法について、「練習させることではない」とお話しされました。

直線の上を上手に切れるようになったら曲線やギザギザの線の上を切る練習をする

○や□の形を書いてその上を上手に切る練習をする

このような指導方法では「失敗した」「うまくできない」という子どもがでてきます。

また、緊張しすぎて、道具を使う楽しさが味わえなくなります。

練習ではなく、「道具を使う」「切る」ことの楽しさが味わえる活動を、とお話でした。

【例1】1回で切り落とせるサイズや、2、3回で切り落とせるサイズの紙を用意し、切る楽しさを味わわせながら、ハサミと紙の持ち方の指導をいねいに行う

【例2】切った紙切れで、ごっこ遊びができるようにカッパなどを準備しても良い

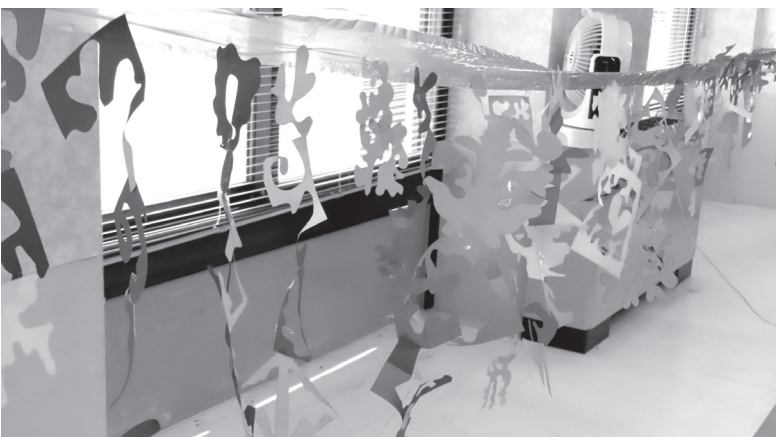
【例3】線は描かずに、「細く切ってみよう」と提案し、太くなったらうどんに、細くきれたらそうめんにしてみたり…

【例4】丸を切る時も、円の線は書かずに、紙の角を切り落としていき、ハサミではなく、紙を回すという方法を教えると、形は歪みだけ色々な大きさの丸ができて面白い

楽しみながらハサミの使い方が身につけていく方法をたくさんご指導いただきました。

最後の実技では、実際に幼児になったつもりで折り紙の4分の1をフリーハンドで切ったり飾ったり。また、切り紙で自分のオリジナルの家を作りました。先生のご指導の下、窓は別紙で切って折って貼り付け、屋根は自由でどんな形でも良いという設定で仕上げました。

締めくくりに子どもの主体とは、「どの子どもも同じように」を願うのではなく、「どの子ども自分なりに」を目指すこと。指導や援助は入口(きっかけ)で子どもの数だけ出口(表現)がある。と話されました。



これは、造形だけではなくその他の活動にもすべて通じる考え方で、私たち保育者が子どもたちを生きいきと育むために一番大切に考えなければならぬ点だと思います。

明日から心機一転、保育者の指導をきっかけとして、子どもたちの表現がどんどん伸びる、そんな楽しい活動をめざして企画していきたいと思えます。

造形活動②

研修レポート 保育士研修会

0,1,2歳児の造形あそび

～造形あそびを通して育みたい子どもの力～

泉州
ブロック

講師 村田 夕紀氏(造形教育研究所代表)

日付 7月27日 場所 大阪府社会福祉会館

0,1,2歳児の
造形活動の見直しから

季節や行事をテーマにした制作や壁面装飾、ぬり絵などについて、「やらせればできる」「できないところは保育者がする」「子どもの作品を保育者が加工」ということはないでしょうか。子どもがなぐりがきをしたものを切ったり貼ったりすることは、本当に子どもの表現でしょうか。

0,1,2歳児の造形活動



は、なぐりがき・シール貼り・シール貼り+なぐりがき・絵の具を使って(なぐりがきやスタンピングなど)・大きい紙に・小さい紙に・のりやハサミを使ってなど、「いろいろな素材を使った造形あそび」です。

【なぐりがき】

基本は、

- 落ち着いた環境で
- 8ツ切り ○白画用紙
- 1色のみ

(よく見える色)

です。なぐりがきの発達過程は、「肩を中心に腕を上下に振って点を打ったり、滑って線になったりする」

です。しつかりハイハイすることで肩や肘が発達してクレパスなども自在に使えるようになり、手首が回るようになりスプーンも上手に使えるなど、描くことは体の発達と関係しています。記録カード(年月日・活動内容・活動のようす)を作品の裏に貼っておくとよいです。描いたものを一つひとつ聞きたって意味や形を求めるのではなく、あくまで見守り、待つ姿勢で読み取っていくことが大事です。

【0歳児からの造形あそび】
造形的な表現だけでなく、振ったりたたいたりしてモノの音を楽しむ行為や全体を働かせて感じたり表したりといった活動、無意識に表情などに現れる表現など、いろいろなものが総合された表現あそびになることがほとんどです。いろいろな素材を使った造形あそびは、

●行為そのものを楽しむ
あそび

●感触を楽しむあそび
●構成を楽しむあそび
●見立てや模倣を楽しむあそび

●場所や空間に働きかけるあそび
●感覚を楽しむあそび
●構成を楽しむあそび
●見立てや模倣を楽しむあそび

●場所や空間に働きかけるあそび
●感覚を楽しむあそび
●構成を楽しむあそび
●見立てや模倣を楽しむあそび

●場所や空間に働きかけるあそび
●感覚を楽しむあそび
●構成を楽しむあそび
●見立てや模倣を楽しむあそび

り」「並べる」「積む」、ビニールテープを「はがす」「はる」「洗濯バサミを「はさす」「振って音を楽しむ」「つなぐ」、布を「引っ張りだす」、寒天あそび、トイレットペーパーや新聞紙を使っただあそびなどがあります。新聞紙は子どもが扱いやすいようにA4サイズで切り込みを入れ、ひと箱ずつ用意するとよいでしょう。積み木では、場所や空間に働きかけ、友だちと一緒に楽しむことができます。

【0,1,2歳児の
造形あそび】

「指導」によって育てようとするのではない。

●子どもが自分であそびを見つめる。
●思わずやってみたいくなる。

●子どもの興味・関心、発達の実情、生活のようすに合わせたモノと場所を用意する。「環境による保育」です。保育者間で共有し園全体で連携することが大切です。人的環境としての保育者のかかわりも大事です。

【造形あそびを通して
育みたい力】

造形あそびは

●いろいろなモノに触れ体感する中で、自分なりの表現を見つけて楽しむ活動。

●モノを介して人とかわる活動。↓自らの表現に向かうことで「主体性」を育てる。人と関わることで「コミュニケーション能力」を高める。
0,1,2歳児の造形あそびは、人として育つ基礎です。



子どもの発達と かわりについて②

梅花女子大学
心理学科 教授

伊丹 昌一

Profile

特別支援教育や発達障がい児・者への支援、障がいのある子どもの家族への支援などを目的に心理アセスメントに長年携わられている。

7月号では気になる子どもを「困った子ども」ととらえるのではなく、「困っている子ども」として正しく理解する必要があることを述べました。そして、子どもが示す「困っているサイン」に気づくことからの支援についての大切さを記載したと思います。

本号では、困っているサインの背景にあるさまざまな理由について考えていきたいと思っています。

子どもの困っているサインの背景要因としては月齢差、粗大運動や微細運動の不器用さ、対人関係・コミュニケーションのとり方の違和感、こだわりの強さ、感覚の過敏さや鈍感さ、動きや衝動性の強さ、注意の集中困難、見え方や聞こえ方の

違い、発達の遅れなど、多くのものがあります。

この段階で私たちが気を付けなければならぬことは、私たち保育者や支援者の役割は子どもにどのような障がい特性があるのかを明確にすることではなく、その子どもはどのようなことで困っているか、その困難を軽減するためにどのような支援保育・支援をすればよいかを考えることです。診断するのは医師などの専門機関の役割で、保育者はどうしたら子どもが困らないようになるのかを考えることが役割です。そもそも、医学の診断においても、子どもが生まれながらに有する困難をいきなり障がいと診断するのはではなく、「症状」として

とらえ、社会生活を送るうえで（環境と個人の相互作用で）困難をきたす状態になれば「障がい」と診断するという方向にきています。

令和4年に改正されたWHO（世界保健機関）による診断基準であるICD-11においても、診断名から「障がい」という言葉がなくなり、「○○症」といったように、症状として診断されるようになりまし。生まれながらのやりにくさはたとえどんなに重篤な状態でも、それは症状であつて、障がいとはとらえません。ただ個人と環境との相互作用で本人が困った状態になった時、その状態を「障がい」と診断されるようになったのです。このように「障がい」の概念そのものが変えられ、子どもの困難を軽減するために本人のみではなく環境面も工夫して、本人を困った状態にしなければその子は症状とともに困らずに生きていけるといふことにはかなりません。

そのためにも、生まれながらに有する特性を正しく理解し、一人ひとりの困難に応じた保育や支援をすることが大切になります。今回はそ

の背景要因としての神経発達症（以前は発達障がい）について解説したいと思います。

紙面が限られているので、ここでは「自閉スペクトラム症」「注意欠如多動症」「発達性学習症」の2つの神経発達症について解説いたします。

「発達性学習症」
読字不全・書字表出不全・計算不全のどれかまたは複数の困難を有する状態です。原因として、全体的な知的発達に遅れがなく、環境的要因が原因ではありません（幼児期に読み聞かせをしていなかったから読めなくなるなどの誤解）。

具体的な姿としては、絵を書き写すことが困難（見本と同じように書けない）、普段あまり使わない語句を読み間違える（特にカタカタが難しい）、読みがたどしく、流ちょうでない、簡単な計算ができない、くつのは左右を間違える等があります。

「自閉スペクトラム症」
社会性の困難さと、こだわりなどの同一性保持（限定・反復の興味活動）の2つの特徴を有する特性です。

社会性の困難については、社会常識やマナーにうといところがある、周りの人がどう思うか気にしない、人の感情を推し量れない（他者感情の理解が困難）、場にそぐわない言動をとる、人に協調できない、話の流れや文脈が理解できない、表情の変化を読み取れない、会話が一方的、話し方がぎこちなく、独特の言い回し等の姿が見られます。

こだわりなどの同一性保持（限定・反復の興味活動）については、予定が変わること嫌がる、気もちの切り替えが苦手、応用が利きにくい、規則や習慣にこだわる、例外を認めず、妥協が苦手、感覚に敏感な部分と鈍麻な部分がある等の姿が見られます。

これらの特徴と、言語能力と知的能力は切り離して考えるようになっていきます。一見わかままととらえられがちなかこれらの行動特徴をよく理解して、頭ごなしに否定しない対応が求められます。

「注意欠如多動症」
家庭や学校など複数の場面で、12歳以前から不注意・多動・衝動の特徴が継続して見られる特性です。

不注意とは、あそびが続かない、話を聞けない、気が散りやすい、忘れっぽい、ランドセルや机周りが汚い等の行動特徴です。

多動とは、目まぐるしい動き、じつとすることが苦手、静かにできないといった姿を表します。

衝動とは、つい正解を答えたい、衝動的にうそをついて自分を守る、順番を待たないといった姿です。

これらの特徴は大人をいらいらさせることになりませんが、わざと行っているのではなく、生まれながらに起こる状態であることの理解が必要で

このような特徴が生まれながらに起こるといふことを十分に理解し、否定的に叱るだけの対応にならないようにすることが重要です。

そのためにも、本稿で記載したような特徴を繰り返した子どもに当てはめて、子どもを正しく理解した対応をすることが求められます。

環境との相互作用とは私たち支援者が子どもを正しく理解することも含まれることに十分注意をしたいものです。

保育の王手箱

担当 北大阪ブロック



子どもから大人まで楽しめる

読んだ後にはマネしたくなる

楽しい絵本を集めました。

日々の遊びや製作のヒントにもぜひ！

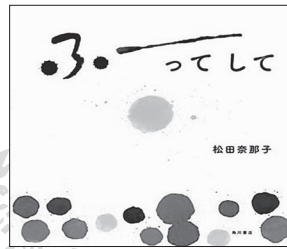
しろいかみのサーカス

福音館書店 さく：たにうちつねお
しゃしん：いちかわかつひろ

白い紙を折ったり 切ったり
丸めたり 破いたり…シンプル
だけど面白い！誰でもど
こでも真似できる。ガサガ
サ・ビリビリ…と音が聞こ
えてきそうな写真絵本です。

ふーってして

角川書店 さく：松田奈那子



色水をぼとり。“ふーってし
て”…。ページをめくる度
に子どもたちと一緒に“ふ
ー”としたくなる。
想像力と好奇心を刺激する
1冊です。

やさいでぺったん

福音館書店 さく：よしだきみまろ



野菜の切れはしでペッタ
ン!! 同じ野菜でも切る
場所によって違うスタ
ンプになる面白さ。何の野
菜の切れはししか…?
あてっこするのも楽しい
ですね。

どっどこ どうぶつえん

福音館書店 さく：中村至男



不思議な不思議な“四角い”動
物園!! 表紙の動物が何かわかっ
たらページを開いて動物園巡り
のスタートです。
これは何かな?と大人もわくわ
くする1冊です。

5月にコロナが感染症5類に位置付けられ社会が動き出しました。3年間オンラインで行われていた会議や研修会も今年度は参集で行われ、園行事もコロナ前に戻りつつある園も多いと思います。

暑い夏を迎え、水遊びやプール遊びも今年は満喫できるかな?と思っていた矢先、今年の夏は晴天続きの酷暑となり、熱中症警戒アラートが発令される毎日。戶外遊びについて考えざるを得ない状況となりました。コロナ禍で過ごしたこの3年。外出ままならない状況の影響で、子どもたちの体力低下も言われる中、どうすれば無理なく全身運動や夏ならではの遊びを楽しめるか?と頭を抱える夏となりました。コロナを乗り越えて、また新たな課題勃発です。

先生方や子どもたちも、熱中症や感染症に負けないで前向きに頑張りましょう。

(N・R)

編集後記